

### 第3節 学ぶ喜びを感じることができるむらづくり

#### 【あるべき姿（4年後のゴール）】

「学ぶ喜びを感じられるむら」の実現に向け、全世代の夢と生きがいを育む地域づくりを推進します。まず、子育て環境の整備として、切れ目のない支援体制を確立することで、村民が安心して子育てできる基盤を築きます。

また、学校教育においては、未来に夢や生きがいを持てるよう、子どもたちの個性と能力を伸ばす教育を充実させます。さらに、誰もが自己実現できる環境として、生涯学習と生涯スポーツの機会を拡充し、村民が生涯を通じて活躍し、健康的に過ごせる環境を提供します。

そして、郷土の歴史文化遺産を大切に守り、次世代へ伝え残していくことで、村への愛着と誇りを深めます。これらの施策を通じて、すべての村民が生きがいを感じ、生き活きと暮らせる村をめざします。

#### ○主観指標【住民アンケートでの満足度（単位％）を向上させること】

| 指標名                     | 現状値<br>(R7 年度) |
|-------------------------|----------------|
| 安心して出産・育児が出来る           | 37.9           |
| 子どもの教育が充実している           | 38.5           |
| 公民館など文化施設が充実している        | 29.1           |
| スポーツを楽しめる機会が充実している      | 20.9           |
| 年齢や性別によらず自分らしく生きることができる | 23.0           |
| 文化的な行事や文化財が保護されている      | 24.4           |

#### ○客観指標

| 指標名          | 現状値<br>(R7 年度) | 目標値<br>(R10 年度) |
|--------------|----------------|-----------------|
| むらづくりの分野     |                |                 |
| 出生率（％）       | 2.27           | 2.62            |
| むらづくりの分野 3－1 |                |                 |

|                                                                                                                                       |       |       |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-------|
| こども家庭センター利用率<br>(利用者／未就園児) (%)                                                                                                        | 93.3  | 100   |
| むらづくりの分野 3-1                                                                                                                          |       |       |
| こども家庭センターの年間利用者延べ人数                                                                                                                   | 1,591 | 1,600 |
| むらづくりの分野 3-1                                                                                                                          |       |       |
| 架け橋カリキュラムの作成                                                                                                                          | 無     | 素案完成  |
| むらづくりの分野 3-2                                                                                                                          |       |       |
| 「私には良いところがある」に対して肯定的に<br>回答している児童生徒の割合 (%)【こころと学<br>校生活に関するアンケート (奈良県教育委員<br>会)】                                                      | 75.5  | 85.0  |
| むらづくりの分野 3-3                                                                                                                          |       |       |
| 「授業では課題解決に向けて、自分で考え、自<br>分が取り組んでいた」に対して肯定的に回答し<br>ている児童生徒の割合 (%)【全国学力・学習状<br>況調査 (文部科学省)】                                             | 74.1  | 85.0  |
| むらづくりの分野 3-3                                                                                                                          |       |       |
| 「地域の大人に授業や放課後などで勉強やス<br>ポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒<br>に遊んでもらったりすることがある。(習い事<br>は除く)」に対して肯定的に回答している児童<br>生徒の割合 (%)【全国学力・学習状況調査 (文<br>部科学省)】 | 40.7  | 80.0  |
| むらづくりの分野 3-3                                                                                                                          |       |       |
| 当該年度当初 (4月1日現在) の人口に対する<br>スポーツイベント等への参加率 (%)                                                                                         | 9.28  | 15    |
| むらづくりの分野 3-4                                                                                                                          |       |       |
| 歴史文化遺産を残すための調査、アーカイブ作<br>成件数                                                                                                          | 1     | 5     |
| むらづくりの分野 3-5                                                                                                                          |       |       |

## ○現状と課題

- ・令和6年度に認定こども園きらりとこども家庭センターてんくるを開設し、幼児から中学生までの一貫した子育て支援につながる体制を整えた。
- ・今後の充実発展を見据えた具体的な成果指標(目標設定)や運営の総括が不明確であり、より専門的な相談支援の利用が求められている。
- ・少子化が進む中、子育ての孤立感や不安・負担感を抱える子育て家庭へのきめ細かい支援が求められている。

## ○取組の方向性

- ・子育て世代の親子が気軽に集い、相互の交流や育児相談ができる拠点として機能することで、子育ての孤立感、負担感の解消を図り、安心して子育てできる村を目指す。
- ・認定こども園の幼児教育を義務教育につなげる体制を作り、子育て世代に選ばれる環境を整える。

## &lt;こんなむらになったらいいな(住民アンケートでの意見)&gt;

- ・村の人口も子どもの数も減っている。子育て世代への支援や、住み続けている住民、移住者に対して手厚い補助金や、サポートがあった方がいい。(20代・男性)
- ・村内村外関係なく子どもはみんな(社会で)育てようよの意識。(50代・女性)
- ・移住された方が「子どもも楽しく過ごし、移住して満足」と話されていて嬉しく思いました。普段の暮らしの充実が、地域を守る将来につながる。(50代・女性)
- ・周辺を見渡しても、若い夫婦がいない状況です。住みやすい村、子育てしやすい村にしたい。(60代・女性)
- ・子育て支援事業てんくる広場・園開放等、施設も新しく、中でお世話してくださる職員の方々のあたたかく元気な対応に感謝。(70代・女性)
- ・やまぞえの子ども達は村の宝です。その大切な子ども達の育成には力をそそいであげて欲しいと願っております。(70代・女性)

## ○具体的な取組

## 1 子育て支援対策の推進

- ・こども家庭センターの充実や保育料無償化などの経済的負担の軽減、地域が一体となった子育て支援体制の充実により、安心して子どもを産み育てられる環境づくりを進める。

## 2 先を見据えた教育の実施（英語教育など）

- ・子どもたちの視野が広がるように、身近な地域とともに他の地域の人々や文化と交流する機会を設ける。

## 3 幼児教育の充実

- ・子どもが健やかに成長するために必要な幼児教育を、保護者、地域、こども園の連携を図り推進する。



○現状と課題

- ・全国学力・学習状況調査の調査結果では、各教科の平均正答率は、令和6年度に引き続き令和7年度においても、全国平均より下回っている。
- ・不登校児童数は増加傾向である。児童生徒のペースに併せて相談に乗ったり、学習サポートを受けられる体制づくりが必要である。
- ・教職員の時間外在校等時間の縮減に向け、現状の公表や、業務改善方針・計画の作成、在校等時間に係る目標設定等を行っていくことが必要である。

○取組の方向性

- ・個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善を図り、児童生徒一人一人の資質・能力の育成を図る。
- ・不登校児童生徒の学びの場を確保し、多様な学びにつなげることができるよう、個々のニーズに応じた受け皿を整備する。
- ・教職員における長時間勤務の要因の多くを部活動指導が占めているという現状を踏まえ、学校部活動の在り方を検討する必要がある。また、教員が担うべき業務に専念し、子どもと向き合う時間を少しでも多く確保できるよう、教員を支援する外部人材の配置及び、支援スタッフの配置拡充を図る必要がある。

<こんなむらになったらいいな（住民アンケートでの意見）>

- ・新しくなる小中学校が楽しみです。（20代・女性）
- ・地元山添は自然豊かで、静かな良い環境があります。課外活動など実学を増やしてほしい。（20代・女性）
- ・英語教育に力を入れてほしい。どんな人（海外から来た人、帰国子女など）でも住みやすい村にしてほしい。（20代・女性）
- ・村をあげて、未来を担う子ども達の学力底上げが必要。（40代・女性）
- ・小中一貫校になり、楽しい教育にも力を入れてもらい、安心して高校に進学できるよう、塾などに行かなくてもいいように充実させていただきたい。（60代・女性）
- ・こども園が新設され、小・中一貫校も数年後に開校される教育環境にあり、併せて自然の豊かさをアピールして、若者の移住促進につなげるような行政を希望します。（60代・女性）
- ・小中一貫校が進められていますが、子ども達の教育がいつそう充実されるよう、新たな視点に立った努力をお願いしたい。（70代・女性）

## ○具体的な取組

### 1 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

- ・ こども園と義務教育学校の架け橋となるカリキュラムを作成する。
- ・ きめ細やかな学習支援体制の充実を図る。
- ・ 主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善を行う。
- ・ 独自教科「やまぞえ学」の設定及び多文化共生教育を推進する。

### 2 不登校対策の推進

- ・ 校内の教育支援センター設置及びスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる支援体制の充実を図る。

### 3 教育D X、教員の働き方改革

- ・ 長時間勤務の是正及び支援スタッフの配置拡充を行う。
- ・ I C Tなどデジタルの力も活用しながら教員の業務効率化を図る。

○現状と課題

- ・学校と地域住民等が協力して整備したコミュニティ・スクールやコミュニティ協議会が持つ役割を十分に機能させる必要がある。
- ・少子化の中でも、子どもたちが学ぶ機会を持つとともに、地域での多様な体験やさまざまな世代との豊かな交流等を通じた学びなどの新しい価値を創出する。

○取組の方向性

- ・学校と地域の橋渡し役である地域コーディネーター（地域学校協働活動推進員等）の人材育成及び学校ボランティアの人材確保を図る。
- ・学校と地域との連携・協働によって、地域とともにある学校づくりを進めるため、持続可能な学校運営の促進に努める。

＜こんなむらになったらいいな（住民アンケートでの意見）＞

- ・通勤に時間がかかる。子どもの習い事に車送迎が必須。村内で習い事が週1回でもできると嬉しい。（30代・女性）
- ・引きこもりの子どもたちが増えていることを踏まえ、子どもたちの居場所づくりを行なって欲しい。（60代・女性）
- ・子ども達との交流が少ないので、各大字か昔の小学校区くらいで、老人の元気な人達が自由に米や野菜を作付出来る様な土地を探し、共に活動できる機会を作れたら。（70代・女性）

○具体的な取組

1 地域学校協働活動の充実

- ・地域コーディネーターの人材育成及び学校ボランティアの人材確保を行う。

2 学校運営協議会の充実

- ・学校運営協議会の開催回数拡充及び協議内容の充実を図る。

#### ○現状と課題

- ・山添村民スポーツ（体育）大会は、大会全体を通して幅広い年代の参加があるが、少子高齢化や人口減少に伴い参加者数は年々減少傾向である。
- ・公民館の利用率が低く、各講座を実施しているが、幅広い参加者の確保ができていない状況である。

#### ○取組の方向性

- ・幅広い世代が心身の健康及び体力の保持増進と豊かな生活（スポーツライフ）を送ることができるよう、持続可能なスポーツ活動ができる社会の実現に向け取り組む。
- ・一人ひとりが心豊かに人生を送れるよう村民のニーズに応じた取り組みをしていき、村民の主体的な生涯学習活動の支援を行う。

#### ＜こんなむらになったらいいな（住民アンケートでの意見）＞

- ・スポーツの多様化により、ふるさとセンターに屋内の多目的施設が欲しい。こども家庭センターてんくるともうまく組み合わせられたら。（40代・男性）
- ・地域公民館における公民館活動が充実している。一緒に学ぶことでコミュニケーションが生まれ、知り合いも増え、楽しく過ごすことができました。（60代・女性）
- ・子どもや大人が自由に勉強、読書、事務作業などができるように公民館や図書室を解放して欲しい。（20代・女性）
- ・スマホ教室の開催やものづくり教室他、魅力的な活動、学びの場が近くにあり、人と人とのふれあいのできる環境は何よりありがたいと思います。（70代・女性）

#### ○具体的な取組

##### 1 スポーツ振興

- ・スポーツ振興では、心身の健康及び体力の保持増進と豊かな生活（スポーツライフ）の形成を目的とした事業を行う。そのためにも、少子高齢化が進んでいく中で年配の方々や子どもたちでも気軽に参加できるようなスポーツ活動の定期的な開催を検討する。

##### 2 公民館事業

- ・公民館で公益性のある講座や、幅広い年代が参加しやすい講座の内容や時間設定をするとともに、公民館の予約方法を確立する。また多目的に利用可能な空間を設け、講座の他にも“自由に過ごせる居場所”になるような施策を進める。

## ○現状と課題

- ・地域での歴史文化遺産の維持管理および保存継承が困難となる背景には、少子高齢化をはじめ資金不足や敷居の高さ、価値観の共有不足、関心の分散、教育学習機会の減少といった複雑に絡み合った物理的、心理的、社会的要因がある。地域の歴史文化遺産をなぜ守り継承していく必要があるのかを村民全体で正確に認識する必要がある。
- ・文化団体の活動により山添文化フェスティバルなどで文化に触れる環境を維持しているが、子どもの減少と指導者の高齢化により、伝統文化子ども教室の活動休止が相次いでいる。まずは、文化活動を保存することが喫緊の課題であり、継続と継承のサポートが必要である。

## ○取組の方向性

- ・最優先で大学や研究機関、村民と協力した保存目的の事業を進め、付随して維持管理者へのサポート体制を充実させ歴史文化遺産の維持管理の負担の軽減を行う。
- ・保存継承環境が整った上で次世代につなぐために、教育・観光・地域活動を連携させ、活用に向けた取り組みを進める。
- ・歴史文化遺産を後世へ残すため、各種行事や各団体のあり方・方向性を再確認し、保存や記録に向けた活動内容を検討する。

## ＜こんなむらになったらいいな（住民アンケートでの意見）＞

- ・神野山をはじめとする山添村の自然資源や文化的資産は、地域の誇りです。多様な地域資源を再発掘・再編集することが大切です。（40代・女性）
- ・文化財の保存について、村全体の収蔵庫を作ってはどうか？（70代・男性）

## ○具体的な取組

## 1 歴史文化遺産の保存

- ・現時点で山添村に残っている歴史文化遺産を大学や研究機関、村民と協力して調査研究し、アーカイブとして長期的に保存することで将来、必要に応じて検索や再利用できるように備える。
- ・維持管理の担い手がおらず管理が不可能になった歴史文化遺産の行政管理を検討する。

## 第4節 心身ともに健やかに暮らせるむらづくり

### 【あるべき姿（4年後のゴール）】

「心身ともに健やかに暮らせるむらづくり」の実現に向け、生涯にわたる健康の維持と、安心して生活できる支援体制の確立に注力します。

保健施策においては、村民一人ひとりが生涯を通じ、元気で健康に暮らすことができるよう、予防医療や健康増進活動を充実させます。これにより、病気の早期発見・予防を促し、健康寿命の延伸を図ります。

また、医療体制については、誰もが身近なところで質の高い医療を受けることができるよう、地域医療機関との連携を強化し、医療提供体制を安定的に維持します。特に高齢者や子育て世代が安心して暮らせるよう、きめ細やかな医療アクセスを確保します。

さらに、福祉の充実を図り、障害の有無や年齢に関わらず、全ての村民が元気で夢や生きがいを持って暮らすことができるよう支援します。地域包括ケアシステムを充実させることで、互いに支え合い、孤立を防ぐ地域づくりを通じて、誰もが自分らしく活躍できる共生社会の実現をめざします。

### ○主観指標【住民アンケートでの満足度（単位％）を向上させること】

| 指標名            | 現状値<br>(R7 年度) |
|----------------|----------------|
| 安心して医療が受けられる   | 41.3           |
| 健康づくり活動が充実している | 37.0           |
| 福祉のサービスが充実している | 55.0           |

### ○客観指標

| 指標名          | 現状値<br>(R7 年度) | 目標値<br>(R10 年度) |
|--------------|----------------|-----------------|
| むらづくりの分野     |                |                 |
| 健康寿命（歳）      | 男性：83.18       | 男性：84.07        |
| むらづくりの分野 4－1 | 女性：86.49       | 女性：87.03        |
| 特定健診受診率（％）   | 50.9           | 60.0            |
| むらづくりの分野 4－1 |                |                 |

|                |      |      |
|----------------|------|------|
| 診療所の受診者数／人口（％） | 23.1 | 30.0 |
| むらづくりの分野４－２    |      |      |
| 活動サロン実施箇所数     | 26   | 30   |
| むらづくりの分野４－３    |      |      |

○現状と課題

- ・本村では「健康山添21計画」に基づき、健康維持・増進や予防等の各種施策を展開するとともに、住民のライフステージに応じた事業の実施や啓発活動の充実を図っている。
- ・健康検査の受診率は比較的高いものの、新規の受診対象者や働き盛り世代の受診率が特に低い現状にあることから、未受診者に対する受診啓発の強化などを進める必要がある。

○取組の方向性

- ・「健康山添21計画」において、「健康寿命の延伸」をテーマに設定した8つの方向性、「家族」「地域＜元気で長生き＞」「たばこ」「お酒」「運動」「食事」「歯」「こころの健康」に基づき、各種事業の積極的な展開を進める。
- ・健康診査受診率を更に向上させ、疾病の早期発見、早期治療につなげる一方、保健・栄養指導をはじめ、生活習慣の改善や見直し等の支援に向けた体制の充実を図る。

＜こんなむらになったらいいな（住民アンケートでの意見）＞

- ・個々の状況によって様々なのできめ細やかな高齢者支援を希望します。（60代・女性）
- ・老人の元気な人達が自由に野菜を作れるような土地を探し、作物をすることで、となり近所の人達にも声かけや、余分な野菜をあげられることが元気につながるのでは。（70代・女性）
- ・コロナ以来、村民、隣人同士共に希薄さを感じる。活気を作って高齢者が安心して暮らせる地域づくりの推進をしてほしい。（70代・男性）

○具体的な取組

1 健康の保持・増進

- ・特定健診・がん検診等の充実と受診率の向上を図り、早期発見・早期治療等、健康の保持増進を推進する。
- ・乳幼児をはじめ、子ども園や小・中学校、関係機関、団体と連携した多世代への食育事業を推進する。
- ・診療所医師や村内開業医師との連携により、保健予防指導及び栄養指導の強化に取り組む。

2 保健予防サービスの充実

- ・住民が健康を維持するため、健康相談、栄養相談、歯科相談等が受けられるよう、情報提供の充実を図る。



- ・乳児から高齢者までを対象とした健康診査や健康相談、健康教育等の保健事業を推進する。
- ・自殺者ゼロをめざし、こころの健康づくりについての啓発とともに相談機関の周知を図る。

○現状と課題

- ・医療体制のあり方については、地域住民への説明も実施しながら合意形成を得るべく進めている。

○取組の方向性

- ・村内3診療所の効率的な運営（救急、夜間診療、休日診療体制）の検討を進め、住民が最後まで自宅で暮らせる医療体制を構築する。
- ・村内に新たな診療所を設置し、運営を開始予定である。

＜こんなむらになったらいいな（住民アンケートでの意見）＞

- ・救急車を呼んでも病院がなかなか決まらず、ずっと待機していることがあったので、受け入れ先がどうなるのか心配です。（60代・女性）
- ・診療所の充実に期待。（70代・男性）
- ・地域医療が衰退し、急病になっても救急車で遠くの病院へ行かなければならない不安がある。（年齢・性別回答なし）
- ・投薬に関して、山添村には院外処方できる所が無く、診療所等で配布している院外処方案内にも、どの薬局が配達してくれるか等の情報が少なく不親切。（年齢・性別回答なし）

○具体的な取組

1 診療所医師の安定的な確保

- ・医療従事者の負担軽減を目的のひとつとして、オンライン診療導入なども取り入れるとともに、県や近隣市町村と連携の上、医師の安定的確保をめざす。

2 将来的な診療所の運営方法の検討と実現

- ・グループ診療の継続に加え、オンライン診療・出張診療の導入検討、院外処方の普及を進め、人員・設備・財政の各観点から将来に渡って持続可能な診療所の運営方法について具体化する。

### ○現状と課題

- ・高齢者が多くなる中で、介護を必要とする高齢者ができる限り住み慣れた地域で生活が継続できるようにするために支える体制の深化・推進が必要となっている。
- ・地域包括支援センターにおいては相談対応や介護サービス調整が迅速に行えるというメリットがある一方、両業務の専門化が進む中で専門職の継続確保が課題である。

### ○取組の方向性

- ・高齢者福祉、障害福祉、地域福祉の充実を実現するため、医療・介護・福祉・生活支援などの関係機関が連携し、地域全体で支える体制を構築する。
- ・地域包括支援センターの運営体制については、令和6年度から社会福祉協議会に委託している。今後も行政との連携のもと、医療・福祉の専門職が業務に選任で従事する体制を維持・継続する。
- ・地域住民やボランティア、自治会などが互いに支え合う「地域共生社会」の実現を目指し、住民主体の見守りや支援活動を後押しする。

### ＜こんなむらになったらいいな（住民アンケートでの意見）＞

- ・村民一人一人が活躍できる環境づくり、一人一人が高齢になっても活躍することで、健康寿命の延伸、医療費削減、活力ある地域づくりにつながると思います。（例：シルバー人材の活用、公務員の副業支援など）（40代・男性）
- ・高齢者が増えているので、互いに支え合う時代に。（50代・女性）
- ・買物にも行けなくなってくるので移動スーパーを週に1回でも良いので回ってもらえる様にするとか。（60代・女性）
- ・高齢者が増えてきて自身も高齢のため、自身の健康と生活、介護に追われて日々を暮らしている。将来の自分の行く末がどうなるかばかり心配です。（70代・女性）

### ○具体的な取組

#### 1 地域包括支援センター機能の充実

- ・社会福祉協議会への地域包括支援センター業務委託により専門職を確保して、行政直営では実施困難であった認知症支援・啓発に関する取り組み（カフェや映画会等）や生活支援体制整備の充実などを図る。

#### 2 民生児童委員の活動支援

- ・村が窓口となり、社会福祉協議会や県福祉事務所と連携しながら、民生児童委員への適切な情報提供や専門職による支援を行う。

### 3 福祉サービス、制度の周知

- ・社会福祉協議会や民生児童委員と連携・協力の上、窓口での説明のみでなく、訪問などの手段も活用しながら、介護保険サービスや村独自の福祉サービス（福祉タクシーや緊急通報装置貸与など）の周知を進める。

## 第5節 活気と賑わいのあるむらづくり

### 【あるべき姿（4年後のゴール）】

「活気と賑わいのあるむらづくり」の実現に向けて、地域経済の活性化と交流人口および関係人口の拡大を柱に施策を推進します。

まず、基幹産業である農業においては、農業を核とした地域が主体となり、地域住民同士が共生する仕組みの構築を推進するとともに、未来まで持続可能な環境に配慮した農業の取り組みを進め、村外から村を目指す農業者を呼び込み、担い手を確保し、産業の継続に取り組めます。また、商工業では、地域の歴史や文化といった特性を最大限に活かした事業を支援し、活発な商業活動を促進することで、地域内経済の循環を強化します。

さらに、未来の村を担う人材を確保するため、移住定住の促進に取り組み、若者や新たな移住者に「選ばれる」魅力的な生活・就労環境を整備します。これらの取り組みと連動して、地域プロモーションを積極的に展開し、村の持つ豊かな地域資源に改めて魅力を感じ、大切にする意識を育みます。これにより、観光客の誘致だけでなく、村に興味を持った人が引き続き関係性を持ってくれるような関係人口を創出し、村全体の活気と賑わいを創出します。

### ○主観指標【住民アンケートでの満足度（単位％）を向上させること】

| 指標名           | 現状値<br>(R7 年度) |
|---------------|----------------|
| 村内の産業に活気がある   | 6.8            |
| 空き家の利活用が進んでいる | 61.5           |

### ○客観指標

| 指標名             | 現状値<br>(R7 年度) | 目標値<br>(R10 年度) |
|-----------------|----------------|-----------------|
| むらづくりの分野        |                |                 |
| 村商工会員数          | 112            | 112             |
| むらづくりの分野 5－1    |                |                 |
| 有機農業取組農地面積 (ha) | 9.3            | 10              |
| むらづくりの分野 5－1    |                |                 |

|                    |            |            |
|--------------------|------------|------------|
| 空き家バンク 空き家登録件数（累計） | 57         | 90         |
| むらづくりの分野 5－2       |            |            |
| 空き家バンク マッチング件数（累計） | 28         | 45         |
| むらづくりの分野 5－2       |            |            |
| 村内観光客入込客数          | 272,352    | 300,000    |
| むらづくりの分野 5－3       |            |            |
| ふるさと応援寄附金 受入額（円）   | 53,000,000 | 70,000,000 |
| むらづくりの分野 5－3       |            |            |
| ふるさと応援寄附金 寄附件数     | 3,900      | 5,100      |
| むらづくりの分野 5－3       |            |            |
| ふるさと応援寄附金 返礼品数（累計） | 221        | 236        |
| むらづくりの分野 5－3       |            |            |

## ○現状と課題

- ・村の基幹産業である農業の後継者不足が顕著。担い手不足による農業の衰退は地場産業への影響のみならず、村の景観の維持や集落コミュニティの存続、人々が生きていくために最も重要な食糧供給源の喪失等、地域住民の暮らしに大きな影響を与えることが危惧される状況である。
- ・村内の中小企業や個人事業主の多くは、家族経営をしている場合が多く、労働者の確保や後継者不足が深刻な問題となっている。特に若い世代が都市部へ移住してしまうため、事業の継続性に不安を抱える経営者が多い。
- ・地元の市場だけでは十分な売上を上げることが難しく、新商品の開発やブランディング、また販路を広げるためのマーケティング活動が重要だが、専門的な知識やリソースが不足している。

## ○取組の方向性

- ・村民の村内企業への就職を促すとともに、都市部からの若者の移住・定住を見据えた村内企業のPRを行う。
- ・村商工会と連携し、事業承継を促進するとともに、村内での起業を促す仕組みを構築する。また、新商品の開発、ブランディング支援、販路開拓を実現するため、商工会と連携した支援事業を検討する。

## &lt;こんなむらになったらいいな（住民アンケートでの意見）&gt;

- ・就職先が少ない。自分は結婚したらこの地域には住まない。（20歳未満・女性）
- ・村で育った子供たちの働く場所を創出。企業誘致などで、少しでも村内に若い世代が働ける場所があればいい。（スタートアップ誘致など）（40代・男性）
- ・近隣への通勤を想定した移住を呼び込むより、事業主などへ創業に関する補助などの取り組みの方が、現代社会の働き方は多様なので、移住につながる。（40代・男性）
- ・地震災害の少なさ、未使用地の多さ、交通利便（西名阪）の良さを生かした産業を優先した誘致を図ることで21世紀型の地域（ITと自然の共生）をめざせる。（60代・男性）
- ・村内で活動している団体を知る機会がないので知りたい。横のつながりをもっと作って協力して出来る事があるのではないのでしょうか。（70代・女性）
- ・地域の活性化を目指した様々な取り組みが展開され感謝していましたが、取り止めに残り残念。意欲的に働く者の後押し、育ててくれる行政であってください。（70代・女性）
- ・できる限り、農地、農業、農村を守った上での行政であってほしい。（70代・男性）

## ○具体的な取組

### 1 村内企業のPR事業

- ・村内企業への就職を促すため、イベントや企業説明会、SNS、メディア等を通じて企業情報を発信することにより、村内企業の認知度を高める。

### 2 村商工会との連携による事業承継の促進と起業支援及び地域ブランド力の強化

- ・事業承継を促進するため、個人事業主を中心に事業の継続を支援するとともに、起業を志す若者が起業しやすい仕組みを村商工会と連携して構築する。また、新商品の開発やブランディング、販路開拓についても村商工会と協力し、実効性のある支援を展開する。

### 3 農業を核とした農村型地域運営組織（農村RMO）の推進

- ・地域住民が主体となり、住民どうしが支え合うむらづくりの実装に向け支援する。

### 4 代々受け継がれてきた村の農業継続への支援

- ・過去から脈々と受け継がれてきた農業を守り、未来へ引き継ぐために、住民が取り組む営農活動や農地環境整備に対し支援を継続する。



○現状と課題

- ・若年層の人口流出による人口減少と少子高齢化が進んでいることが、空き家が増加する大きな要因となっている。利用しなくなった空き家は、周辺環境に危険を及ぼす可能性が高くなるため、未然に防ぐための対策が喫緊の課題である。
- ・空き家の利活用、移住・定住が進むよう空き家総合相談窓口を設置し、空き家バンクの運営や空き家セミナーを開催しているが、利用されない空き家が増え続けている現状にある。

○取組の方向性

- ・引き続き空き家に対する課題について住民への啓発を充実させるとともに、集落に赴き空き家対策への意識の醸成を図る。
- ・空き家の利活用を促進し、管理不行き届きの空き家の抑制を図るため、相談窓口を充実させる。
- ・豊かな自然や歴史、地域産業の認知度向上と親和性の高い地域プロモーションを強化することで、山添村に行きたい（交流人口～関係人口）、山添村に住みたい（移住）人を増やす。
- ・民間が主体性をもって取り組む地域づくり事業や地域課題解決にむけた取組に対し支援、伴走することで持続可能な賑わいのある地域を創造し、移住・定住しやすい地域づくりを促進する。

<こんなむらになったらいいな（住民アンケートでの意見）>

- ・空き家バンクなど活用し、若い移住者の方々を増やして欲しい。（40代・男性）
- ・空き家対策を進めて、移住したい人に住んでもらい、開かれた村作りを期待しています。（40代・男性）
- ・山添村に定住したいと思えるような施策、他の市町村に負けない山添村の強み、力を入れたいことを明確にしてほしい。（40代・回答なし）
- ・車がないと生活できないが、逆に駐車場代を払わずに、車が所有できる事、安い家賃で広い家に住めるという事をアピールすれば。（40代・男性）
- ・若者が1度は都会に出て、いろんな経験を重ねたのち、山添村に帰ってきたいと思える村政にしてもらえたら、うれしいです。（50代・女性）
- ・後継者がおらず、ゆくゆくは空家になることか予測され、取壊しにも莫大な金額がかかると思います。少なくとも取壊しの助成金などがあると有り難いです。（60代・女性）

## ○具体的な取組

### 1 空家等対策計画を基本とした空き家対策の推進

- ・空家等対策計画に基づき、空き家問題に対する意識啓発、適正管理の推進、空き家の利活用、特定空家等の除却、空き家に対する補助制度の充実を図る。

### 2 相談窓口の充実と空き家バンクの運営

- ・空き家の管理・活用・除却等、様々な相談を受ける窓口を設け、活用できる空き家については利用希望者とのマッチング等を行い、危険空き家発生の抑制につなげるとともに、村外から本村への移住の促進を図る。

### 3 移住・定住しやすい地域づくり

- ・大字や地域づくり団体、企業が主体性をもって取り組む地域づくり事業を支援することで、賑わいのある移住・定住しやすい地域づくりを促進する。

## ○現状と課題

- ・村観光協会が掲げる観光客誘致の柱として、これまで星空、羊、和紅茶、イワクラを掲げて活動し、交流人口の増加は進んできているものの、移住や定住といった形で人口の社会増に至るまでの顕著な成果は得られていない。
- ・S o y e l（ソエル）を村の観光・交流・移住・産業の拠点と位置づけ、村内外に情報を発信し、村の賑わいづくりを行ってきた。今後は、より一層関係団体が連携し、魅力的なむらづくりを推進する必要がある。
- ・ふるさと応援寄附金事業による財源確保のため、令和5年度から返礼品の開発やポータルサイトのブラッシュアップなど、事業を強化し寄附金の増加に取り組んできた。関係人口のさらなる拡大を図るためにも、ふるさと応援寄附金事業を通じた郷土愛の醸成、地域プロモーション、産業活性化の観点をより強化する必要がある。

## ○取組の方向性

- ・観光協会が掲げる4つの地域資源を柱に、観光協会と連携し、村内観光の産業化（いわゆる「稼ぐ観光」）を進める。
- ・S o y e l（ソエル）を村の観光・交流・移住・産業の中核拠点と位置づけ、関係団体が連携して官民をつなぐ役割を強化し、その活用を推進する。
- ・ふるさと応援寄附金を通じた地域プロモーションにより、「関わりしろ」を明確にすることで郷土愛を醸成するとともに、寄附者から交流人口へまた関係人口へとつながる道筋の強化を図る。

## &lt;こんなむらになったらいいな（住民アンケートでの意見）&gt;

- ・これから家庭を築いていく世代を山添村でしかできないやり方で増やしていく必要がある。人口を増やさないとどんなにいい政策もできない。（20代・男性）
- ・自然にかこまれて、心豊かに過ごせる場所だと思っています。村の良さをPRして移住しやすい場所づくりをがんばってほしいです。（30代・女性）
- ・村内だけのイベントや村外の人も対象のイベントを実施し、活気ある村となるよう計画してほしい。（30代・女性）
- ・山添村の良い環境に、観光客がもっと増えてもらえる様な施設が欲しいです。SNSなどでいっぱいアピール出来たら良いです。（40代・女性）
- ・人がふえないと学校・病院など不便になるので、田舎暮らしの魅力をもっと伝えて欲しい。魅力のある村づくりを検討してイベント・行事などに参加していきたい。（50代・男性）

- ・村のしきたりや慣習、郷土的なものも強制的であってほしくないと個人的には思います。全国的に移住率の高い自治体などを参考にしてもらいたい。(60代・女性)
- ・居住地とならなくても、多様な形で関わる人々を増やし、ワクワクする企画で山添村の応援の輪を広げる。アニメ・ドラマ・小説等とのコラボ(聖地巡礼)など。(60代・女性)
- ・TV等見ていると、何時間かけてもそこにおいしいおそばがあるだけで人は来る事を見たことがある。何かずばぬけた物(人)があれば突破できるのではないか。(70代・女性)
- ・山添村は交通の要所にあり、花香房横のソエルをもっと有効活用していただきたいです。(40代・男性)
- ・いろんなところで頑張っている。それぞれが繋がればもっと外にアピールできる。つながり方、アピールの仕方、それを持続していく人などが大切。(50代・男性)
- ・村内で活動している団体を知る機会がないので知りたい。横のつながりをもっと作って協力して出来る事があるのではないのでしょうか。(70代・女性)
- ・昨年月ヶ瀬へ行きましたが、お店も駐車場も美しく、又来たいと思う場所です。山添村も観光地があるので、若い人も住めるような素敵な村であってほしい。(70代・女性)

## ○具体的な取組

### 1 村観光協会と連携した「稼ぐ観光」の推進

- ・観光協会が掲げる4つの地域資源に加え、環境整備や情報活用、連携と協働を図りながら、観光協会と連携し、村の産業全体が潤う観光振興を推進する。

### 2 S o y e l (ソエル) を拠点とした村の活性化と賑わいづくり

- ・観光・交流・移住・産業などの関係団体が連携し、S o y e l (ソエル) を拠点として村の魅力を発信する。また、村内外の人々が集う交流の場として、イベントや情報発信を通じて交流人口の増加を図る。

### 3 ふるさと応援寄附金事業

- ・ふるさと納税を通じて村の特産品やサービスを全国にPRし、新たな販路開拓につなげていくことで、新商品の開発や新規事業者の参画などの好循環を生み出し、地域産業の活性化へとつなげる。
- ・ふるさと納税の使途を明確化し山添村の取組や魅力を発信することで、本村で生まれ育った方々の郷土愛を醸成するとともに、山添村を応援する関係人口の創出と拡大を図る。

## 第6節 健全で持続的な行政運営ができるむらづくり

### 【あるべき姿（4年後のゴール）】

「健全で持続的な行政運営ができるむらづくり」の実現に向け、人口減少社会に対応した効率的かつ質の高い行政の実現を目指します。

財政面では、経営資源の縮小予測に対し、ビルド&スクラップの徹底により持続可能な財政基盤を確立します。人事では、住民に寄り添い共創できる職員を育成し、「事務処理型」から「課題解決型」の人材への転換を図ります。

また、業務改善を継続的に行い、予測不可能な社会に対応できる効率的かつ能率的な組織をめざすとともに、デジタル変革（DX）を推進することで、村民視点でのサービス向上と行政運営の効率化を両立させます。

さらに、公民連携を積極的に行い、民間活力を導入することで、持続可能で質の高い公共サービスを提供します。加えて、広域連携を通じて、国・県や他自治体との連携・交流を深め、行政課題の解決と地域の発展につなげます。これらの取り組みにより、未来に向けた健全な行政運営基盤を確立します。

### ○主観指標【住民アンケートでの満足度（単位％）を向上させること】

| 指標名                   | 現状値<br>(R7 年度) |
|-----------------------|----------------|
| 効率的な行財政運営がなされている      | 7.8            |
| 行政サービスのデジタル化が進み便利になった | 53.6           |
| 開かれた村政が推進されている        | 12.1           |

### ○客観指標

| 指標名                 | 現状値<br>(R7 年度) | 目標値<br>(R10 年度) |
|---------------------|----------------|-----------------|
| 財政計画の策定及び適切な運用の実施   | 未策定<br>未実施     | 策定<br>実施        |
| むらづくりの分野 6－1        |                |                 |
| 人材育成方針の策定及び適切な運用の実施 | 未策定<br>未実施     | 策定<br>実施        |
| むらづくりの分野 6－2        |                |                 |

|                |       |       |
|----------------|-------|-------|
| 正職員の年次休暇取得率（％） | 17    | 37    |
| むらづくりの分野 6－3   |       |       |
| 外部人材と共創した事業数   | 3     | 7     |
| むらづくりの分野 6－3   |       |       |
| テレワーク実施日数      | 0     | 100   |
| むらづくりの分野 6－3   |       |       |
| 村税徴収率（％）       | 98.65 | 98.65 |
| むらづくりの分野 6－4   |       |       |
| 官民連携事業数        | 0     | 4     |
| むらづくりの分野 6－6   |       |       |
| 自治体広域連携事業数     | 0     | 4     |
| むらづくりの分野 6－7   |       |       |

## ○現状と課題

- ・生産年齢人口の減少や高齢社会の進行により、税収の減少や社会保障関係経費の増加が見込まれている。また、現状では将来にわたる財政計画が策定されていない。
- ・人口減少が見込まれる中、老朽化した公共施設などインフラの維持管理費の増大が想定されており、現在の公共施設の量や質をそのまま維持することは難しい状況にある。

## ○取組の方向性

- ・「ビルド&スクラップ」の考えに基づき限られた財源を最適配分することで、住民福祉の最大化や、新たな政策・将来への投資に必要な財源を確保する。
- ・業務の見直しをはじめとする行政改革を継続するとともに、予算策定のためのノウハウをさらに調査研究して健全な財政運営を維持する。

## &lt;こんなむらになったらいいな（住民アンケートでの意見）&gt;

- ・お金がない中でも行政として一緒に取り組んでいることが真の協働。課員のやりがいや村の役に自分になっているという自覚にもつながり、村への愛着にもなる。（40代・男性）
- ・住民の立場に立った丁寧な行政、笑顔、活気のある人材の育成、安心して暮らせる村づくり。（70代・男性）
- ・これまでの事業評価について、知らないことが多いなと感じています。最近、若い村職員の退職が目立ちます。心配なことです。（70代・女性）
- ・従来の考え方から今大きく転換していく時期にきているのでは…と思います。（80代・女性）
- ・村政・予算のつけどころ、政策の柱（目標・目的）に軸が分かり難いです。⇒目玉や将来展望を示して下さい。でなければ若者達も判断しづらいと思います。（70代・男性）

## ○具体的な取組

## 1 効率的・効果的な行政の推進

- ・行政需要への対応や地域の実情及び住民ニーズにあった質の高い行政サービスを提供するため、デジタル技術の活用による業務事業の効率化や、適正な定員管理と政策目標達成のためのプロジェクトチーム設置など、効率的な組織体制の構築に努める。また、デジタル技術の活用による手続きのオンライン化の推進などにより、村民サービスのさらなる向上を図る。

## 2 健全な財政運営の推進

- ・財政計画（財政シミュレーション）を作成するなど、後年に多大な財政負担が生じないように中長期的なむらづくりの視点に立った財政運営を推進するとともに、ふるさと応援寄付金事業や使用料・手数料の見直し等を行い、さらなる自主財源の確保や有利な地方債の活用などにより健全財政に努める。
- ・「ビルド&スクラップ」の考えに基づき、中長期の視点で村の将来像を実現するために優先的に取り組むべき事業の選択と集中、最小の経費で最大の効果が得られる事業の実施手法の検討など、効率的かつ効果的な財政運営を推進する。

## 3 遊休財産の利活用

- ・旧小学校などの遊休財産は、引き続き利活用に向けた検討を行うとともに、老朽化により利活用が難しい施設については、計画的な解体撤去を進め、跡地の活用を検討する。